



# せとまちだより

SETOMACHI-COMMUNITY NO17

令和3年4月28日(水)  
瀬戸地域まちづくり協議会  
吉岐市芦辺町箱崎大左右触924  
080-8574-5853  
発行責任者 前田 清信

マスクの着用・手洗い・うがい・三密× 新型コロナ感染防止のため忘れないようにしましょう！

## 令和3年度 瀬戸地域まちづくり協議会総会 (運営委員会)を開催しました！

令和3年4月15日(木)瀬戸地域まちづくり協議会の総会を箱崎地区公民館で開催しました。今年度は新型コロナ感染防止のため相談役・役員・各部会3名・吉岐市地域担当職員・事務局と総数36名の出席者で執り行いました。

令和2年度(基礎額)は交付金等の収入 1,733,891円で 支出1,446,401円になり残額 287,490円は次年度繰越になります。地域保全型(加算額)は、収入300,000円で支出が228,184円となっています。残額 71,816円は次年度繰越です。地域活性化型(加算額)は交付金と参加費などあわせて収入228,404円で支出は228,404円となっています。

主な支出項目は、広報紙「せとまちだより」印刷代・写真展のプリント代・レクレーションポッチャやカルチャー事業(親子消しゴムはんこ教室等)の講師・審判員謝礼や参加賞・材料代・浦会やボランティアグループの活動に対する助成・傷害保険料・事務所用机椅子などの備品代です。

これらは、総会において承認されました。

令和3年度 交付金は 基礎額 1,732,000円 地域保全型 300,000円  
地域活性化型 150,000円 となっています。

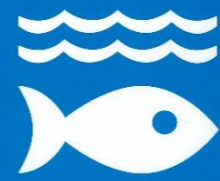
事業計画は、2年度と同様の事業を展開していきます。皆様のご協力をお願いします。



### 写真掲載についてお願い

「せとまちだより」は、地域の身近なコミュニティ紙として瀬戸地域内に、毎月発行・配布しています。地域の写真愛好家が、古くから撮りためたものや、押し入れの中からわざわざ見つけていただいた写真の提供を受け、掲載しています。今後も、これまでの瀬戸祭や運動会等の写真を紹介したいと思っています。行事写真なので多くの人が写っていますし、故人もいられますので一人ひとり了解をいただくことは不可能です。もし、載せてもらいたくない方がいられましたら事務局までお知らせください。また、提供していただける写真がありましたら連絡をお願いします。 事務局長 原田

14 海の豊かさを  
守ろう



15 陸の豊かさも  
守ろう



## SDGsを考えよう

総会で、「レジ袋廃止を呼びかけたらどうか」との意見がありました。ご承知のとおり昨年からはレジ袋は有料となりました。それでは、なぜレジ袋を減らさないといけないのでしょうか……

レジ袋はプラスチックからできています。

日本でも異常気象による災害が近年増加していますし、海水の温度上昇により漁業にも影響がでています。地球の温暖化を防ぐにはプラスチックごみから出るCO<sub>2</sub>排出量を減らすことが必要だと言われています。日本では、毎日、国民ひとり1枚のレジ袋を使っていると言われていて、一人ひとりが意識してレジ袋使用量を減らしていくことは確実にプラスチックごみ削減につながります。(環境省等資料参照)SDGs 17の目標で14は海の豊かさを守ろうです。小さな取り組みですが、レジ袋使用回数を減らしていきましょう

## 瀬戸市・たこ揚げ大会が開催されました！

4月18日(日)2年ぶりに瀬戸市とたこ揚げ大会が行われ、会場入口では新型コロナ感染防止のため検温が実施されました。瀬戸市は、行くのが早かったせいか、人出は少なく、出店者も大分減っていましたが、瀬戸市の灯が消えなかったので安心しました。少し離れた場所で商いされていた「あまっこ」さんは、準備していた材料はなくなりそうだと話されました。

午後は少弐公園でたこ揚げ大会(瀬戸浦々会青年部主催)こちらも入口で検温。小学校1年生~6年生力作の凧は、風に乗れ、空高く舞い上がりました。

個人の部では、馬渡吉岐乃ちゃんが優勝。小学校の凧は、5月連休明けにピアに展示します。買物ついでに観てください。





## 私たちは だ〜れ

瀬戸では、大正元年からいわし刺網漁が始まったとの記載がある。和船による漁業は昭和5年ごろまで続くが、全盛期は大正の中期から末期までと言われている。いわしは主に石けんの原料となる油を採取することが目的で瀬戸にも15、6箇所の加工場があった。

昭和に入りいわしの回遊も少なくなり倒産する網元が多くなった。昭和2年ごろからは韓国から北朝鮮の漁場までいわしを追っていった。戦時中、一時中断されていたいわし刺網漁業も昭和21年ごろから復活した。昭和26年ごろになると漁獲高も良くなり、昭和27年ごろになると、漁協も夏場の中着網を自営するようになり、漁協や下久水産の中着網の灯船に魚探が設置された。30年ごろになるといわし網も最盛期となり石川県の小木港より「幸丸」という船が入漁して来た。31年ごろになると船の係留棚も向町の平和橋付近から妙見の定置倉庫付近まで連なっていた。給油所の内側にも漁協の中着網棚がありここにもいわし網船が係留していた。当時の瀬戸浦には大型で25隻ぐらいであった。いわしがとれると沖から大漁旗をなびかせて入港し、棚にはいわし抜きの女性が待ち構え、浜は活気に満ちていた。(瀬戸浦史より抜粋)

今回、大村さんから貴重な写真を提供していただきました。昭和32年3月いわし大漁記念写真でしょうか瀬戸浦史にはいわし刺網漁の事が詳しく

書いてあります。  
読んでいくうちに大漁のいわしを網から引き抜く人々の光景が目に浮かんできそうです



## 中瀬・工事期間が 延長されました！

工事名 芦辺漁港機能保全工事（1校区） 工事箇所 壱岐市芦辺町瀬戸浦（南町）長谷川重家車庫前  
工事期間が3月28日までとなっていましたが、令和3年8月31日まで延長されましたのでお知らせします。工事期間中は通り抜けができませんので注意してください。工事車両等の往来も多くなっていますので安全運転をお願いします。また、中通りの西町（こうじや）から南町の貴船神社先までは一方通行です

